

No.5

株式会社  
環境内水面資源研究所  
**佐藤 嘉**

第7期生



## 経歴

佐藤さんの経歴は極めて濃密だ。地元の高校を卒業後、県外の国立大学、大学院へと進学。金属工学の分野で博士号を取得した。その後大学の研究員等を経てUターン。酒田工業高校、鶴岡工業高校、羽黒学園、鶴岡工業高等専門学校の講師を務め、専攻以外の分野でも様々な知見を得た。その知見を活かし、地元製造業の研究開発や生産ライン改善、補助金活用等のコンサルも行いながら、幅広く経験と知識を蓄積してきた。

## 試験管レベルでは意味がない！

佐藤さんは大学院や地元工業高校で研究を続ける中、ある信念を抱くようになった。それは、「試験管の中で幾ら研究を繰り返しても、社会の課題を根本的に解決することにはならない。」という想いである。自分がこれまで打ち込んできた研究成果を社会実装しなければならぬ。そのような考えから、自ら起業することを決意。2事業の立ち上げを経て、現在は(株)環境内水面資源研究所(以下、環研)の代表取締役を務めている。

## 地球規模の課題を「本気」で考える

環研が取り組む課題は壮大だ。地球温暖化への挑戦である。今取り組んでいる事業はブルーインフラの社会実装だ。陸の植物より二酸化炭素の吸収効率がいい「海藻」を海中に植えることで、カーボンニュートラルを達成しようというものだ。一見壮大すぎて俄かに信じられないが、国土交通省の実証実験事業に選定され、酒田北港の一角で実証実験を行っている。日々メディアで見聞きする脱炭素問題。普通に生活していると、どこか遠い問題に感じてしまうが、崇高な理念、強烈な使命感の下、地球規模の課題に本気で挑戦する企業がこの庄内にある。そう考えると、急に身近な問題に思えてくるから不思議である。



研究所内には海藻に関する研究成果がびっしり。

## 想いが出会いを引き寄せる

「小学校か中学校か、昔から漠然とした興味はありました。」専攻は金属工学であり分野としては近いと言えないが、環境のことは常に頭の片隅にあった。ある時、そんな佐藤さんの環境への想いを知る企業の社長から、地元の名士(自称・迷士)、山澤清という人物を紹介された。環境に対する想いを同じくする佐藤さんと山澤氏は意気投合。環研の立ち上げを力強く後押ししてもらった経緯がある。

## 若手経営者塾

若手経営者塾に入塾したきっかけも、山澤氏からの後押しがあったからだ。また、若手経営者塾へは、石川政樹氏、山澤永氏のチームで入塾した。このチームは現在ブルーインフラ事業を進めるチームとなっており、若手経営者塾で共に学ぶことが事業を進めることに活かされている。「非常に面白かった。」若手経営者塾の感想を尋ねると3人は口を揃えて「中々、常に新しいことに挑戦する講師陣の体験談に深く共感できたようだ。」



社会課題と向き合う「チーム環研」  
左から石川氏、佐藤氏、山澤氏

## 新しいチャレンジ

佐藤さんの次の挑戦はブルーインフラ事業の先にある。魚介類が集まる人工漁礁を沈め、豊かな海を復活させようという取組みである。人工漁礁に必要な技術の特許まで取得している。ブルーインフラで地球温暖化に挑戦し、人工漁礁によって魚介類の水揚げも復活させ、人類の食糧問題も解決する。そんな地球規模の課題に本気で挑戦する企業が庄内にある。事業の成功を心から祈念したい。

株式会社 環境内水面資源研究所  
住所/鶴岡市羽黒町市野山字山玉林 125-1  
電話/090-6224-0606  
Mail/satoyo.tsuruoka.nct@gmail.com



つなぐ力で100年幸せな街づくり

鶴岡信用金庫

https://www.tsuruoka-sk.jp/